

中地域における取組み状況について

地区名 平地区保健福祉センター

現在の取組み状況について

平成27年7月23日(木)に平成27年度第1回平地区中地域ケア会議を実施。地域課題や会議の要旨については別紙を参照。

今後の方向性について

今後の開催スケジュールについては、別紙を参照。

地域課題について

7月2日 草野地区 地域ケア会議

領 域	現状と課題
1 「住まい」「住まい方」	【下神谷、赤沼、泉崎】アパートや団地が多いので避難者多く近隣との関係希薄になりやすい。
2 生活支援福祉サービス	【赤沼】高齢者見守り隊結成、意見交換会や災害時要援護者マップ作成している。隊員から相談や情報が寄せられるようにしたい。 【草野】スーパーあるが歩いてはいけない。購入したものを届けてくれるサービスについてスーパーに相談したことがあるが採算の話をされ断られた。近隣が購入してくれると助かる。 【六十枚】家族同居でも洗濯機の使い方など民生委員に相談、連絡がくることあり。家族に遠慮がある様子 民生委員がゴミだしの支援している人いる
3 「医療」や「看護」	【北神谷・水品】医療機関の送迎や介護保険を利用し受診している
4 介護リハビリテーション	【下神谷・六十枚】介護保険を利用していると民生委員訪問しにくい（介護受けているので大丈夫ですと言われてしまう）
5 予防・保健	【原高野】シルバーリハビリ体操教室が5月から開始。月2回20名前後の参加があり好評である 【馬目】シルバーリハビリ体操教室を月1回実施しているが参加者が減少傾向 効果が実感でできず意欲の低下が考えられる。 【下神谷】男性：庚申会 女性：十九夜様 継続している 【北神谷・水品】合同で老人会（年3回）実施
6 各領域の連携に関すること	【赤沼】新聞店が平へ移転となり情報が入らなくなった。 民生委員が訪問すると「どこからきいたの？なんでしているの」と言われることあり
7 その他	【北神谷他】「2000円」貸して等不審な声かけあり 農業の委託あり 受託者が土の特長や地域のルールがわからずトラブルになることあり

第1回平地区中地域ケア会議要旨

- ・市消防本部平消防署
高齢者でベットから落ちて動けなくなり、救急車の要請があるケースなど、高齢者の衣食住をどのように支援していくかが課題。
- ・いわき中央警察署
高齢者の孤独死への対応あり、民生委員、消防署との連携が重要。
市全体の事件発生件数は減少しているが、上記の消防のような件から110番通報は増加。
特殊詐欺の被害も増加中。区長、民生委員と連携して市民へ特殊詐欺の啓発活動を行っているが、自宅に引きこもりがちで周囲から孤立しがちの高齢者に対して情報がうまく届かないため課題となっている。
- ・民生児童委員
民生委員は自分の担当地区の高齢者等の名簿を作成。緊急連絡カード、救急医療情報キットの配備も進め、各戸を訪問している。
- ・消防団
災害時に地域で支援が必要な人の情報がない。災害時の要援護者マップを各地域で整備して、その情報を共有できれば災害時に活用できるのでお願いしたい。
- ・社協小地域福祉活動事業
体操や集会等のさまざまな活動を行っているが、表面のみでなかなか地域に浸透しない。情報を集めにくく（個人情報について抵抗感があるため）活動が深まらない。
- ・公民館
公民館活動において、60歳以上の高齢者のサークル活動が多く、そこでの交流、活動が生きがいとなっている。（現在は高齢者の利用者が中心となってしまっているので、若年や子供の利用も増やしていきたい。）

・平地区高齢クラブ連合会

高齢化率は高いが、老人会への加入率が低下しており、会員数が減少。

(加入者の死亡、施設入所等による退会者増加、及び現在の高齢者(70代)は自分は高齢者でないと意識から加入せず。)

こういった状況ではあるが、高齢者は助けられるだけでなく、地域に出ていくとの考えのもと、老人会として小学校での活動(小学校の授業で昔遊び等を教える)や平窪での100円喫茶の開催を行っており、今後は積極的にPRをしていきたい。

・介護支援専門員

利用者に対して介護保険制度だけでは補いきれない支援(ゴミ出し、電球交換等)が多くあり、地域の人との協力が無いと対応しきれない。現在、ケアマネと民生委員との連携は不十分でありこれからの課題。なお、訪問時に緊急連絡カード、救急医療情報キットをよく見かけ、利用者は多い。

・薬剤師会

高齢者は自分で服薬管理が行えず、残薬が大きな問題になっている。

利用者が薬局に来るたびに服薬について説明し、服薬状況や残薬を確認しているが、相手にどこまで伝わっているのか確認しようがない。(相手が「大丈夫です。」というところ以上踏み込みようがない。)

相手の家に入って確認するわけにもいかず、服薬についてどのように支援すればよいのか、どこに連絡したらよいのか解決策がない状況である。

・福島県老人福祉施設協議会、福島県認知症グループホーム協議会

両施設とも入所待機者が多い。特別養護老人ホームでは100人以上の待機者が常態化しており、本当に緊急性のあるケースはショートステイでつなぎながら、入所診断会にかけるなど対応に苦慮している。

・医師会

終末期医療を進めるために、本人が人工呼吸、心臓マッサージ等の医療行為について事前に選択できる冊子を作成中。

・その他

それぞれの専門職(民生委員、薬局、ケアマネ等)の横のつながり、情報の共有化が大きな課題となっているが、個人情報の関係もありなかなか難しい。問題も多いが、情報を共有し、多職種連携を進めるべきである。

平成27年度スケジュールについて

1 いわき市地域包括ケア推進会議の開催

第1回いわき市地域包括ケア推進会議の開催（平成27年6月3日）

第2回いわき市地域包括ケア推進会議の開催（平成27年8月10日予定）

2 平地区中地域ケア会議の開催

第1回平地区中地域ケア会議開催（平成27年7月23日）

※基幹地域ケア会議の開催状況により、第2回平地区中地域ケア会議の開催日程を調整（平成27年12月頃を予定）

3 基幹地域ケア会議の開催

平成27年度は草野、平窪、神谷の3地区

年度	開催地区	基幹型地域ケア会議年間スケジュール予定		備考
		平成27年4月～7月頃	平成27年8月～平成28年1月頃	
平成27年度	草野	7月2日第1回基幹地域ケア会議実施		今後第2回基幹地域ケア会議の日程調整予定
	平窪			今後基幹地域ケア会議の日程調整予定
	神谷		9月7日第1回基幹地域ケア会議実施予定	今後第2回基幹地域ケア会議の日程調整予定

中地域における取組み状況について

地区名 小名浜地区保健福祉センター

現在の取組み状況について

【会議開催状況】

平成27年6月17日に第1回小名浜地区中地域ケア会議を開催。

【第1回中地域ケア会議の内容】

1. 平成26年度の中地域ケア会議の検討結果とその後の取組みを説明
(平成26年度の検討結果)

- ①見守り体制の構築
- ②認知症の理解・啓発・早期発見
- ③介護予防、認知症予防の充実

上記の課題を解決するため、各地区の集会所を拠点(地域の「通いの場」として)とした地域づくりを平成27年度から進めていく。

(その後の取組み)

検討結果について周知を図るため、社協、民協、区長それぞれの会議等に参加し、説明を行った。

2. 地域課題整理票の検討

3. (仮称)小名浜地区認知症在宅ケア講演会実行委員会の立ち上げ

今後の方向性について

【中地域ケア会議の開催スケジュール】

第2回 中地域ケア会議 平成27年9月2日 19時～21時

- ・地域課題整理票の検討
- ・中地域での課題解決に向けた検討
- ・(仮称)小名浜地区認知症在宅ケア講演会実行委員会の報告

第3回 中地域ケア会議 平成27年11月18日 19時～21時

- ・地域課題整理票の検討
- ・中地域での課題解決に向けた検討

第4回 中地域ケア会議 平成28年2月10日 19時～21時

- ・1年間のまとめ、次年度への課題

中地域における取組み状況について

地区名 勿来・田人地区保健福祉センター

現在の取組み状況について

【第1回会議開催状況】

1、開催日時：平成27年7月17日（金） 14:00～16:00

2、参集者 :12人（別紙名簿のとおり）

3、検討内容

- ① 平成27年度勿来・田人地区中地域ケア会議の運営について
- ② 勿来・田人地区の地域課題に係る関係機関の連携推進について

4、地域改題

- (1)「車の運転ができない高齢者世帯への支援、補助制度の拡充」、
- (2)「高齢者世帯及び高齢者単身世帯の増加により見守り体制の強化」、
- (3)「往診や訪問診療等の家で受けられる医療等の充実」、
- (4)「地区の集会所を高齢者の集まりの場として開放するなど、高齢者が外に出たくなるような仕組みの構築が必要」
- (5)「災害時の迅速な避難誘導や災害情報の提供体制整備が必要」

今後の方向性について

1、検討事項

上記の地域課題5項目について優先的に検討を行うこととする。

2、開催スケジュール

平成27年度は3回開催予定とする。

- (1)平成27年度 第2回勿来・田人地区中地域ケア会議
平成27年10月（予定）
- (2)平成27年度 第3回勿来・田人地区中地域ケア会議
平成28年1月（予定）

中地域における取組み状況について

地区名 常磐・遠野地区保健福祉センター

現在の取組み状況について

- ◆小地域ケア会議
 - ・見守り隊発足を契機とする地区：常磐4地区、遠野1地区
 - ・個別ケア会議を契機とする地区：常磐1地区 ……計6地区が活動中
- ◆住民支え合い活動づくりモデル事業（常磐1地区）
 - ・7/19協議体設置、先進的小地域ケア会議と位置づけ活動中
- ◆医療・福祉・介護機関交流会（包括主催で例年実施の自主交流会）
 - ・7/24開催（年1回）、中地域ケア会議の部会（専門職連携）の一端と位置づけ活動中
- ◆中地域ケア会議
 - ・7/23 委嘱状交付式
第1回会議
 - ・運営要領の協議・承認、正副会長の選出
 - ・今後の進め方、現在の取組み状況等

今後の方向性について

- ◆小地域ケア会議
 - ・見守り隊の自主的な活動をベースに、地域課題の抽出・解決策の検討を誘導してゆく
- ◆住民支え合い活動づくりモデル事業（常磐1地区）
 - ・先進的小地域ケア会議として、地域課題の抽出や多様なサービスの創設などについて、モデルとなる手法等の確立を目指す
- ◆医療・福祉・介護機関交流会
 - ・成果を中地域ケア会議部会で共有し、引き続き検討を深める
- ◆中地域ケア会議
 - ・地域包括ケア推進会議の三部会と同様の部会を設置し、地域課題の検討における同会議とのスムーズな連携を図る
 - ・第2回会議はH28.2/25開催、部会等での検討内容の報告等を予定

中地域における取組み状況について

地区名 内郷・好間・三和地区

現在の取組み状況について

内郷・好間・三和の3地区について、それぞれの地区の方部会を開催し、地区の現状と課題を集約している状況(三和地区は予定)。

- 1 内郷地区 7月14日(火) 13:30~15:00 総合保健福祉センター
- 2 好間地区 7月22日(水) 13:30~15:00 総合保健福祉センター
- 3 三和地区 7月30日(木) 14:00~15:30 三和ふれあい館

今後の方向性について

10月に3地区の2回目の方部会を開催し、1回目で集約した現状と課題をさらに煮詰め、2月開催予定の内郷・好間・三和地区中地域ケア会議にて承認を受けたものを、いわき市地域包括ケア推進会議にて報告する予定。

中地域における取組み状況について

地区名 四倉・久之浜大久地区保健福祉センター

現在の取組み状況について ※6月24日開催の中地域ケアの会議内容

- 1「住まい」
 (課題) ・古い家屋が多く、段差が多い。農村部は同居世帯が多いが日中独居(都市部は高齢のみ世帯が多い)。罹災により仮設・災害公営住宅が増えコミュニティの崩壊。町中の狭い路地は救急車等が入れない。等
 (対策) ・高齢者の見守り・緊急時の対応を家族へ確認。その内容を近隣の支援者・民生委員等と情報共有。等
- 2「生活支援
 福祉サービス」
 (課題) ・バス路線等の減少で通院・買物が不便、閉じこもりがち。ごみ出しができないが近隣者には頼みづらい。家の管理(草むしり)等ができない。等
 (対策) ・社会資源情報の収集と整理・情報発信。多様なサービスの創出のための検討。等
- 3「医療」「介護」
 (課題) ・耳鼻咽喉科がない、精神科以外の入院病床がない。介護施設は満床で入所できない。一方、在宅介護では訪問診療・訪問看護を上手に利用できない。
 (対策) ・ケアマネネットワーク(年4回)、医療と介護の連携の集い(年1回)を開催し、連携強化・協議を図る。等
- 4「介護リハビリテーション」
 (課題) ・在宅での継続的なリハビリが難しく機能低下が進む。等
 (対策) ・介護予防の啓発。機能低下予防(交流・活動・運動)のための取り組み。等
- 5「予防・保健」
 (課題) ・外出の機会が少なく、身体機能の低下が進む。老人会・サロン活動がない地区がある。潜在的な閉じこもり高齢者が多い。等
 (対策) ・4の対策に同じ。等

今後の方向性について

※今年度のつについては以下の3課題を中心とした取り組みを確認。

○住民参加型「介護予防」の推進

- ・交流の場づくり(サロンの継続・立ち上げ)
- ・運動の場づくり(シルバーリハビリ体操の推進、指導員養成講座周知)

○「認知症対策」の推進

- ・見守り活動(見守り隊、サロン活動等による把握)
- ・「認知症サポーター養成講座」の推進と協議(医療機関、社会福祉法人、地域密着型事業所等との連携)
- ・「徘徊SOSネットワーク」の構築(行政、社協、事業所、包括等との協働)
- ・「徘徊模擬訓練」の実施(民間団体主導で行政、社協、包括等との協働)
- ・「勉強会」等の開催(地域づくり講演会(認知症対応能力向上:7月11日開催(舞子浜病院 田子Dr))

○「生活支援」サービスづくり

- ・モデル事業(新町地区)(移動、買物、通院等とその他の隙間サービス(ごみ出し等)及びボランティアの人材確保・育成を検討)
- ・その他必要な検討(老人クラブ、婦人会等との連携(友愛訪問、弁当配布)を検討)

中地域における取組み状況について

地区名小川・川前地区保健福祉センター

現在の取組み状況について

(小川地区について)

現在3つの部会のうち、2つの部会が進行している。(地域リハ作業部会、多職種連携作業部会)

地域リハ作業部会については、7月末時点で2回ほど会を開き、8月5日に3回目の作業部会を開催する。リハビリ専門職も当初の3職種(理学・作業・言語聴覚)に、新たに2つの職種(栄養士・歯科衛生士)が加わり、地域の元気高齢者に対する総合的・効果的なアプローチを考え、プログラムの開発を行う。また、開発したプログラムを地域内で展開するリハビリの学校(仮)において実施できるよう、ハード面での調整も同時に行っている。11月には作業を概ね完結させ、それ以降は作業部会を解散し、実行委員会(仮)として運営していければいいと考えている。

多職種連携作業部会においては、地域内に関係する介護保険関係事業所をはじめ、地域医療機関の医師に協力していただいて建設的な話し合いを行っている。

現在のところ、地域内業種間のネットワーク強化や医療機関との連携について話し合われている。

地域ボランティア関係の作業部会については、現在のところ調整中であり、今年度中に具体化していきたいと考えている。今年度においては、何らかの形で地域へ買い物弱者にかかる状況把握を中心にリサーチをかける。(川前地区について)

川前地区においては、「高齢者等見守りネットワーク連絡会」の実施を地域ケア会議と兼ねることとしており、今年度は6月に総会を実施した。総会においては、見守り活動についてのグループワークや地域の課題について話し合いがされている。

今後の方向性について

今年度においては、10月上旬に小川地区の地域ケア会議を開催する。

それまでに、現在実施している作業部会について作業を進め、特に地域リハ作業部会は次年度に事業を実施できるよう調整している。(作業の進捗については概ね半分程度まで仕上がってきている認識している)

多職種連携作業部会については、建設的な意見が出ており、地域の中の課題を1つでも解決できるような何かを作り上げていければいいと考えている。

川前地区のネットワーク連絡会については、現状維持を図りながら、今後多角的な視点で状況を分析できればいいと考えている。